



Knots NEXT 'One World, One Life'

公益社団法人Knots・ツツ・結び目
WEBサイト <http://knots.or.jp>

[今号のメッセージ]

芝崎牛の診療所

獣医師 芝崎繁樹先生

古来、牛はヒトの役に立つ使役牛として農耕用に飼育されてきました。私の子供時代（昭和30年代）は、ニワトリが縁の下で牛が廄（うまや）で飼育され、農業ではなくてはならない存在でした。

農業の近代化とともに機械化が進み農家から牛がいなくなってしまった。今や牛は農場という限られた空間で肉用牛か乳用牛として管理された環境下で多頭飼育されています。

農場では、子牛が生まれると個体識別番号が入ったタグを両耳に装着、個体の管理が行われます。これは、トレーサビリティ制度と言つて安全で安心できるお肉の流通方法として消費者に生産情報を伝わるシステムとなっています。

近年、地球環境問題で立っていることに感謝して食しているヒトは、どれほどいるでしょうか。

田倉牛神社（岡山県備前市）「牛頭天王（ごずてんのう）」を祀る牛の神様として農家で飼育されている牛の健康と五穀豊穣を祈願します。



イヤータグ（耳標）お肉屋さんで表示されている個体識別番から家畜改良センターの個体識別番号検索システムを利用すると品種、生年月日、飼育場所などを調べる事が出来ます。

ヒトの都合で飼育されている牛たち、ヒトとしてどう対処すべきなのか、家畜との幸せな共生を実現させるためには知恵を絞りながら、一歩ずつ踏みしめる牛の歩みのように着実に歩む必要があるのでないでしょうか。

公益社団法人Knots（結び目）は、「人と（ヒト以外の）動物の幸せな共生」をテーマに主に社会教育事業を行っています。

Knotsが日頃お世話になっております素敵な皆さまから、メッセージを頂くシリーズです。

家畜との幸せな共生実現の知恵を

胃内では微生物が飼料を分解・発酵する時にメタンガスが発生、反芻時に口からメタンガスを放出します。

これらが温室効果ガスの約4%を占めることになり、地球環境への影響が懸念されています。